

再 評 価 書

箇所名	一般国道 421 号 大安 IC アクセス道路		事業名	道路事業	課 名	道路建設課 (桑名建設事務所)
事業概要	工 期 (下段前回)*1	平成 24 年度～令和 7 年度	全体事業費 (下段前回)*1	6,200 百万円(負担率：国 55%、県 45%)		
		平成 24 年度～令和 6 年度		5,500 百万円(負担率：国 55%、県 45%)		
事 業 目 的 及 び 内 容						
<p>■当該路線の概要</p> <p>一般国道 421 号は、桑名市三ツ矢橋を起点とし、いなべ市を経て、滋賀県近江八幡市に至る延長約 72 km の幹線道路です。当該路線は、いなべ市内で整備が進められている東海環状自動車道の大安 IC へ員弁川を渡河しアクセスするための重要な路線となります。</p> <p>しかし、周辺地域には、員弁川を横断できる道路が限定されているため、国道 421 号の三笠橋で慢性的な渋滞が朝夕の通勤時間帯に発生しています。また、東海環状自動車道は、平成 30 年度に東員 IC～大安 IC 間が開通し、令和 6 年度に大安 IC～(仮称)北勢 IC 間、令和 8 年度に(仮称)北勢 IC～養老 IC 間が開通予定となっており、これらにより東海環状自動車道西回りが全線開通し、高速道路の道路広域ネットワークが完成するため、さらなる渋滞が予想されます。</p> <p>このため、本事業によりバイパスを整備することで、一般国道 421 号現道部の三笠橋に集中する交通を分散させ、交通渋滞の緩和を図るとともに、インターチェンジまでのアクセス時間を短縮し、大安 IC へのアクセス向上を図ります。</p> <p>また、東海環状自動車道へのアクセス強化ならびに、員弁川を渡河する新たな路線を整備することで、産業集積地である当該地域への交通の利便性を向上させ、地域産業の支援を図ります。</p> <p>これらに加え、当該地域は、鈴鹿山脈の周辺に観光地が点在しており、新たな道路整備により当該観光地へのアクセスを強化することで、地域観光産業の支援を図ります。</p> <p>■事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道 421 号の交通渋滞の緩和 ・大安 IC へのアクセス向上 ・地域産業の支援 ・地域観光産業の支援 <p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画区間 14 年間(平成 24 年度～令和 7 年度) ・全体事業費 6,200 百万円(工事費：5,200 百万円、用地費：1,000 百万円) ・計画延長 L=3,500m(バイパス区間L=2,200m、4車線拡幅区間L=1,300m) (起点)いなべ市員弁町大泉新田～(終点)いなべ市大安町高柳 ・幅員 バイパス区間W=6.5m(11.5m)、4車線拡幅区間W=14.0m(24.75m) ・主要構造物 橋梁 1橋 						
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果						
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>全体計画事業費に変更があったことから、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条(4)に基づき再評価を行いました。</p>						
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況</p> <p>令和 4 年度末時点の事業進捗率は、事業費ベースで 65%(工事 59%、用地 100%)となっています。</p> <p>2-2 今後の見込み</p> <p>令和 7 年度の完成に向け、事業を推進します。</p>						

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

現在整備が進められている東海環状自動車道の（仮称）北勢 IC～養老 IC 間が令和8年度に開通予定と公表されており、これにより東海環状自動車道（西回り）が全線開通し、高速道路の道路広域ネットワークが完成します。

また、いなべ市では企業の事業進出が進んでいるとともに、本事業への期待の声も寄せられています。

このため、大安 IC へのアクセスの強化となる事業の必要性は一層高まっており、当該事業の必要性に変化はありません。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回評価時の費用対効果分析の結果 ※2

【前回評価時】（令和2年時）

総費用（C） 51.1億円
総便益（B） 243.5億円
費用便益比（B/C） = 4.8

② 費用対効果分析の結果 ※3

費用便益比（B/C）	総費用（C） （残事業） / （事業全体）	総便益（B） （残事業） / （事業全体）
【事業全体】 3.4	20億円 / 64億円 事業費：19億円 / 62億円	217億円 / 217億円 走行時間短縮便益：197億円 / 197億円
【残事業】 10.8	維持管理費：1.5億円 / 1.5億円	走行経費減少便益：19億円 / 19億円 交通事故減少便益：1.3億円 / 1.3億円

③ 感度分析の結果 ※4

【事業全体】	【残事業】
交通量：B/C = 3.1～3.7（±10%）	交通量：B/C = 9.7～11.9（±10%）
事業費：B/C = 3.1～3.7（±10%）	事業費：B/C = 8.6～14.7（±10%）
事業期間：B/C = 3.0～3.5（±20%）	事業期間：B/C = 10.0～11.2（±20%）

※出典：費用便益分析マニュアル（令和4年2月 国土交通省 道路局 都市局）

4-2 その他の効果

① 地域産業の活性化

・大安 IC 周辺には、市之原工業団地や大安工業団地等多くの産業拠点が整備されており、企業の事業拡張、新規進出が進んでいます。これらの産業拠点に立地する企業からヒアリングした結果、新たなルートでのアクセスが可能となり、三笠橋の渋滞緩和や、東海環状自動車道が繋がった場合の大幅な時間短縮による輸送コストの削減や従業員の確保がしやすくなるなどの期待の声が寄せられており、地域産業の更なる活性化が期待されます。

② 防災機能の強化

・一般国道 421 号現道は緊急輸送道路に指定されていますが、三笠橋の慢性的な渋滞により緊急時の輸送路として機能しないことが想定されます。このため、本事業区間を緊急輸送道路の予定路線に指定し、令和6年度の供用開始により国道 421 号現道部と合わせ新たな輸送路を増やすことで災害時の物資輸送等防災機能の強化が図られます。

③ 地域観光産業の活性化

・当該路線周辺には、キャンプ場や公園等いなべ市の自然を生かした観光地が点在しており、令和6年度の供用開始により員弁川を渡河する新たな路線が増え各観光地へのアクセスが容易となることで、地域観光産業の更なる活性化が期待されます。

4-3 地元意向

令和元年8月に「三重県市長会」から提出された三重県への要望では、一般国道 421 号大安インターアクセス道路の早期完成を強く要望されています。

<p>5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性</p> <p>5-1 コスト縮減</p> <p>① 主要構造物として橋梁を1橋計画していますが、桁材に耐候性鋼材を使用することで塗装が不要となり、維持管理費の縮減を図ります。</p> <p>② 道路法面の一部に張コンクリートを行うことで、維持管理における除草費の縮減を図ります。</p> <p>5-2 代替案</p> <p>既存家屋への影響などをもとに、一般国道421号を拡幅するルートと計画ルートと比較・検証したところ、一般国道421号を拡幅するルートは補償物件が多く地域に与える影響が大きいことから、計画ルートを最適ルートとして採用しました。</p>
<p>再 評 価 の 経 緯</p>
<p>令和2年度の再評価において、事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承されています。</p>
<p>事 業 主 体 の 対 応 方 針</p>
<p>三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点により再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。</p>
<p>委員会意見の概要【事業方針作成時に記述】</p>
<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p>
<p>対応方針【事業方針作成時に記述】</p>
<p>審査の結果、事業継続の妥当性が認められたことから、事業効果の早期発現に向け事業を継続して実施していきます。</p>
<p>事業方針の概要【事業方針作成時に記述】</p>
<p>計画的な事業執行には、円滑な用地確保や予算の確保が必要です。地元関係者へ事業内容や事業の影響を丁寧に説明し、円滑に用地交渉が進むように努めます。また、道路の必要性を国へ説明するなど、計画的な事業執行が図れるよう予算確保に努めます。</p>

※1 再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。

※2 再評価実施事業は、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は、当初計画時の内容を記載する。

※3 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い費用対効果分析の結果を記載する。

※4 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い感度分析の結果を記載する。